

国立音楽大学同調会 2023 年度 代議員会 会議録

日 時：2023 年 8 月 1 日（火）午後 2 時 30 分より午後 3 時 40 分まで

会 場：国立音楽大学 6 号館 101 室（大講義室）

出席者：39 名（議決権者の総数：50 名、この内欠席 5 名、委任状提出 6 名）

配付物：議事次第、出席者名簿、2022 年度活動報告、会計報告、監査報告書、2023 年度活動計画（案）、予算書（案）、同調会アンケート集計結果／参考資料：ホームカミングデイ 2023 チラシ／大学関係資料：OPEN! 2023、秋のオープンキャンパスチラシ、授業公開チラシ、芸術祭体験レッスンチラシ

冒頭、司会の杵淵総合企画部部長・代議員より、代議員会の配付資料が確認された。次に本日の会が成立要件を満たしていることが伝えられた。その後、議事次第に沿って進行した。

はじめに、武田忠善会長の挨拶、続いて重盛次正理事長、梅本実学長にご挨拶をいただいた。規約第 8 条第 4 項により指名された議長：浅野清氏（幹事）、副議長：米井里香氏（幹事・大阪同調会代議員）による進行のもと、配付資料に沿って以下の内容が審議・報告された。

【審議事項】

1. 同調会顧問の選出について <武田忠善 会長>

同調会規約第 13 条にもとづき、2023 年 4 月より学校法人国立音楽大学の理事長に就任された重盛理事長、国立音楽大学学長に就任された梅本学長が顧問に推薦された。

質問・意見等はなく、重盛理事長、梅本学長の顧問就任について拍手で選任された。

2. 2022 年度 活動報告 <神宮寺淑子 幹事代表>

活動報告の内容は配付資料および以下のとおり。

- ① 会議報告：代議員会、役員会について。代議員会は対面開催、役員会はオンラインと対面の併用にて実施した。
- ② 役員改選：会長、幹事等の改選を行った。
- ③ 同調会ニュースの発行：通巻 99 号を 7 月に発行した。
- ④ 卒業記念品の製作：2021 年度同様の卒業証書入れを製作した。
- ⑤ 同調会 Web サイトの更新
- ⑥ 賛助金（寄付）の募集：2021 年度に続き第 6 回の募集となった。884,500 円（年間目標額 500,000 円）の寄付が集まった。
- ⑦ 奨学金の給付：6 名の優秀な学生に給付した。
- ⑧ 県人会助成金の給付：2 団体に助成した。

- ⑨ 第12回ホームカミングデイの開催：「第5回くにたち賞」の表彰式と、受賞者によるトーク&コンサートは対面で開催した。2021年度に続き、収録を行い、同調会 Web サイト上で動画配信を行った。「くにたち写真展」「くにたち懇談会」も実施した。
- ⑩ 学校法人国立音楽大学評議員候補者選挙
- ⑪ 第6回くにたち賞の受賞者選考：同調会 Web サイト上の専用フォームから推薦を可能とした。
- ⑫ 各同調会主催演奏会への教員派遣：7同調会で実施された。
- ⑬ コロナ禍に対応する同調会からの学生支援
- ⑭ 同調会オリジナルグッズの製作

3. 2022 年度 会計報告 <蓮見浩志 総務・財務部経理課課長・代議員>

前項の議事 2 の実施等に伴う会計について報告した。配付資料のとおり。「収入の部」ではグッズ売上、「支出の部」ではグッズ販売手数料、奨学金目録購入費の項目を追加した。

4. 2022 年度 監査報告 <小川哲生 会計監査人>

代議員会に先駆けて、同調会会計監査人の小川哲生氏と堀江志磨氏が監査を行った。小川氏より、監査の結果、収支状況が正しいことが報告された。

質問、意見等はなく、2022 年度活動報告及び会計報告、監査報告について拍手で承認された。

5. 2023 年度 活動計画案 <藤沢章彦 副会長>

活動計画案の内容は配付資料および以下のとおり。

- ① 会議予定：代議員会と役員会について。
- ② 同調会ニュースの発行：通巻 100 号を全 8 ページで発行した。
- ③ 卒業記念品の製作：2022 年度同様に製作する。
- ④ 同調会 Web サイトの更新：各同調会、会員には活動などの広報に活用してもらいたい。
- ⑤ 賛助金（寄付）の募集：第 7 回も募集
- ⑥ 奨学金の給付：第 7 回も 3 月頃を予定
- ⑦ 県人会助成金の給付：第 7 回も 2 月頃を予定。近年、学生の利用が少ないのが残念ではあるが、引き続き募集する。
- ⑧ 第 13 回ホームカミングデイの開催を予定。定年退職した教員を招待する予定。
コロナ禍の 2020 年から行ってきた表彰式、トーク&コンサートの録画収録は行わない。
開催後は、当日撮影した写真等を活用し、同調会 Web サイト上で実施報告する。
- ⑨ 第 7 回くにたち賞選考の実施：推薦についてぜひ協力をお願いしたい。
- ⑩ 各同調会主催演奏会への教員派遣：3 同調会で開催予定
- ⑪ 同調会オリジナルグッズの（トートバッグ）の作成、販売

⑫ 各都道府県同調会へのアンケート実施：すでに実施し、集計結果を当会議の資料として配付した。

議事 5 について、以下の質疑応答があった。

[代議員] 同調会 Web サイトの保守費用について、2022 年度の会計報告では、備考欄に保守費用とあり 338,250 円となっているが、2023 年度活動報告案では、年間保守費用は 308,000 円と記載されている。金額が安くなっているのは業者の変更があったのだろうか。2023 年度予算では前年に引き続き 350,000 円となっているが、これはそのままよろしいか。

[答弁] 2022 年度は保守の他に、Web サイトのページ改修も行ったため、338,250 円となっている。年間保守費用に加え、改修が発生することを見込んでの予算額としている。来年度の会計報告は、備考欄の記載の仕方を検討する。

[代議員] 会計監査報告は終わって承認されたばかりだが、2022 年度の会計報告の「繰越資金の部」の次年度繰越金の残額について、増加しているの、金額の頭に「△」が付くのではないか。

[答弁] 仰るとおりである。「△」を追記すべきなので、お詫びし訂正する。

[代議員] 何年か前にも指摘をしたことがあるが、会計報告や予算書のプラス、マイナスが分かりづらい。予算額に対して、実施額が多くなったらプラス、使わなかったらマイナスと表記するのではないだろうか。

また、2022 年度会計報告の「収入の部」で、賛助金の実施額が予算額より上回っているのに関わらず「△」が付いていることに違和感を覚える。

[答弁] 会計報告の支出の部については、「残額」欄について、例えば印刷費 41 万円の予算に対して、31 万円を使ったので 9 万円が残っているという考え方をし、プラスの表記にしている。ただ、「残額」という表記が良いかどうか、適切な言葉かどうかは今後、検討していきたい。

収入の部の賛助金に関しても、「残額」としているの、実施額が予算額を越えている場合は、正と負が逆転して「△」が付くことになる。

以上の質疑応答を終えて、2023 年度の活動計画案について拍手で承認された。

6. 2023 年度 予算書案 <蓮見浩志 総務・財務部経理課課長・代議員>

前項の議事 5 を受け、2023 年度予算書案について説明した。予算案は配付資料のとおり。

支出について、①通巻 100 号の記念誌となるため、同調会ニュースの予算を増額、②賛助金払込取扱票の値上げにより作成費を予算に計上、③奨学金目録は毎年購入が必要であることから購入費を予算に計上した。

また、グッズ売上とグッズ販売手数料は、収入と支出に分けて記載するよう変更した点が補足説明された。

以上、2023年度予算書案について拍手で承認された。

【報告事項】

1. 同調会活動についてのアンケート実施の報告 <藤沢章彦副会長、武田忠善会長>

藤沢副会長より、アンケート協力のお礼と、アンケート結果を受けて、分析、考察を進めた上で、今後の取組みについて検討していく旨が述べられた。

武田会長からは、「大学派遣教員による演奏会（コンサート&体験レッスン）」について、長年、実施してきたが、要望数が減ってきていることと、体験レッスンの受講生集めに苦労されている同調会もあることから、今後、各同調会から具体的な教員名を挙げて希望があった場合には、国立音楽大学同調会の予算で派遣するという事も検討していきたいという考えが述べられた。

また、今年7月に、本学に勤務している国立音大卒業の教職員で親睦会を行ったことを報告し、学生募集という観点も含めて、大学と地方の結びつきを深めていくために、各同調会へ各出身の教員を派遣するという企画も視野に入れて検討していることも話された。

全ての議事、報告が滞りなく終了し、事務局より「ホームカミングデイ 2023」、「2024年度教員派遣によるコンサート、体験レッスン」の開催申込み時期について案内した後、閉会となった。

以上